

	一般的名称	報告の概要
122	塩酸ラニチジン	新生児集中治療室内に7日間以上入院した新生児において、塩酸ラニチジンの使用が遅発性新生児敗血症の発現を高めることが示唆された。
123	カルジール	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
124	マレイン酸フルボキサミン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
125	マレイン酸フルボキサミン	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発生率上昇が示唆された。
126	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒によると思われる入院患者中、非企図的服用者18人で劇症肝不全が生じ、8人が死亡した。
127	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンによる薬物性肝障害をおこした24例中、6週間以内に4人が死亡し、うちアセトアミノフェンによる急性肝不全で3名が死亡した。
128	ビタミンE含有一般用医薬品	ビタミンEを含む抗酸化サプリメントの投与は、死亡リスクを高めることが示唆された。
129	イトラコナゾール	健康被検者12例を対象としたネビラピンとイトラコナゾールの併用試験において、イトラコナゾールのC _{max} , AUC, T _{1/2} が有意に減少した。
130	ケトコナゾール	HIV感染患者において、エファビレンツとケトコナゾールの併用によりケトコナゾールのAUC、C _{max} が減少することが示唆された。
131	オメプラゾール	胃食道逆流性疾患に対しオメプラゾールを長期投与すると、酸逆流防止手術を行った群と比較して心血管イベントや心臓関連死の発現が高まることが示唆された。
132	エポエチンβ (遺伝子組換え)	化学療法を受けた転移性乳癌患者463例を対象とした非盲検無作為化国際多施設共同試験 (BRAVE試験) において、エポエチンベータ投与群は非投与群と比較して血栓塞栓症のリスクが高まった。
133	ワルファリンカリウム	非弁膜性心房細動患者667例を対象とした調査において、日本人は欧米人と比較して大量出血および頭蓋内出血の発生率が高いことが示唆された。
134	ホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ペバシプマブ、ペバシプマブ単独のランダム化比較試験において、ペバシプマブ群、FOLFOX4/ペバシプマブ群で中枢神経系の出血、腸管穿孔により各1例が死亡した。
135	BCG膀胱内用 (日本株)	非浸潤性膀胱癌患者30例を対象とした研究において、BCG膀胱内注入療法施行時に勃起機能障害のリスクが高まることが示唆された。
136	塩酸イトブリド	機能性消化不良と診断され、内視鏡で器質的な障害が確認されなかった男女で2重盲検プラセボ対比較試験を行ったところ、イトブリド投与群でプロラクチン上昇傾向が見られた。
137	テガフル・ウラシル	結腸直腸癌の肝転移に術前化学療法を行った406例を対象としたレトロスペクティブ研究において、肝不全、急性呼吸窮迫症候群、脳血管障害、心筋梗塞、凝血異常、胆汁漏出・敗血症、原因不明により11例が死亡した。
138	塩酸セルトラリン	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6～18歳で自殺既遂のリスクが増加した。
139	塩酸トラゾドン	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6～18歳で自殺既遂のリスクが増加した。